

総長メッセージ

新たな知の創造・イノベーションの確立・ 未来社会への指針を示すため、 京都大学はこれからも挑戦を続けてまいります

平成29年6月、本学は第3期中期目標期間の初年度である平成28事業年度の財務諸表等を文部科学大臣に提出しました。そして、13冊目となる「財務報告書 Financial Report 2017」を取りまとめました。

本学は明治30年の創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと自主独立と創造の精神を涵養し、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、質の高い高等教育と先端の学術研究を推進してきました。そして世界は今、20世紀には想像もしなかったような急激な変化を体験しつつあります。

東西冷戦の終結によって解消するはずだった世界の対立構造は、民族間、宗教間の対立によってますます複雑、過酷になり、地球環境の悪化は加速し、想定外の大規模な災害や致死性の感染症が各地で猛威をふるい、金融危機は国の経済や人々の生活を根本から揺さぶっています。その荒波のなかで、本学が建学の精神に立ちつつ、どのように社会の要請に答えていけるかが問われています。

他方、我が国の厳しい財政状況のもと、国立大学法人に対しても戦略的な経営強化の必要性が示されるなど、本学を取り巻く環境についても厳しさは一層増しています。

このような状況のなか、昨年度より開始した第3期中期目標期間においては、私が総長就任時に本学が歩む指針として立ち上げた「WINDOW構想」を踏まえて新たに策定した第3期中期目標・中期計画に基づき、大学改革や将来構想の実現に向けたさまざまな課題に取り組んでいく所存です。

この「財務報告書 Financial Report 2017」は、本学が平成28事業年度に取り組んだ主な業務の実績を財務の側面から取りまとめたものです。本年度は新たに、ガバナンス体制やコミュニケーションの強化などの大学運営に関する取り組みをお伝えするとともに、関連するホームページアドレスなども誌面に盛り込み、本学を支えてくださるみなさまにとりまして、より身近でわかりやすい報告書となるように心がけました。

本報告書によって本学の活動状況をご理解いただき、みなさま方からのますますのご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

総長 山極 壽一



自重
自敬



京都大学が めざすもの

世界や社会に通じた

窓を開け風通しをよくし、

野生的で賢い学生を

育てることが私たち

京都大学の共通の夢であり、

目標です。

京都大学の改革と将来構想

— WINDOW構想 —

WINDOW構想は、京都大学を社会や世界に開く窓として位置づけ、有能な学生や若い研究者の能力を高め、それぞれの活躍の場へと送り出す役割を大学全体の共通のミッションとして位置づけたい、という山極総長の考えを背景として策定されました。

そして、WINDOW構想を着実に実現していくため、本学が戦略的・重点的に実施していく事業として、「京都大学重点戦略アクションプラン(2016—2021)」を策定しています。

W WILD AND WISE

未知の世界に挑戦できる実践の場として、
野生的で賢い学生を育成します。

▶ 重点戦略1-1

学生主体で自発的な創意・創造性を活かせるような教育プログラムを充実させ、学生本位の視点に立った教育の質的転換を行うため、講義・コース内容の可視化による教育の質保証を担保するとともに、学部と大学院との柔軟な接続を図ります。

▶ 重点戦略1-2

次世代を担うグローバル人材の育成と育成基盤の強化により、人々を導くことのできる、したたかで強靱なリーダーを育成します。

▶ 重点戦略1-3

対話を根幹とした自学自習を促進するために、学生主体の多様な学びを支える教育学習環境を整備するとともに、人間形成の一翼を担う課外活動を支援します。

[重点戦略アクションプラン着手事業]

- ◆ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム事業
—日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ場としての短期プログラム創設—
- ◆Go! Research, Learning & Language Program (GoRiLLa)
ゴー! リサーチ、ラーニング & ランゲージ プログラム(ゴリラプログラム)
- ◆京都大学ジャパンゲートウェイ構想推進支援事業
- ◆京都大学吉田カレッジ構想
- ◆京都大学大学院共通教育実施事業

D DIVERSE AND DYNAMIC

多様な文化や考え方を受け入れ、悠久の歴史の中に
自分を正しく位置づける落ち着いた学問の場を提供します。

▶ 重点戦略4-1

「京大らしさ」の継承と発展を図るために、京都を丸ごと大学のキャンパスとみなして地域・社会と共生していく「京都・大学キャンパス計画」を推進するとともに、同計画に基づき、行政・経済界・他大学等との連携強化による国際化を推進します。

▶ 重点戦略4-2

グローバルで多様な学生を積極的に受け入れる基盤として、日本人学生と留学生との対話ができるスペースや交流の場を充実させます。

▶ 重点戦略4-3

次世代の教育学習環境の改善、組織化等による研究力向上を図るために、情報環境を整備し、それを基盤として多様な活動を俯瞰できる本学独自の仕組みを構築します。

[重点戦略アクションプラン着手事業]

- ◆留学生等宿舍整備事業
- ◆障害のある学生への支援体制強化事業
- ◆IRを活用した大学運営に向け必要となる体制等の強化
- ◆教学運営を支える教育情報活用(教育IR)推進事業

INTERNATIONAL AND INNOVATIVE

研究の国際化を一層推進し、イノベーションの創出を図ります。

▶ 重点戦略2-1

国際性豊かな環境を醸成します。

▶ 重点戦略2-2

国際的な研究環境・研究支援体制を整備することにより、国内外の卓越した研究者が集う国際研究拠点を設置します。

▶ 重点戦略2-3

京都大学の特徴ある研究分野を分かりやすく提示するランドマークの策定と世界への発信を図ります。

▶ 重点戦略2-4

産官学連携および社会貢献等事業の推進ならびに質の高い医療の提供等を通じて、社会的課題の克服と人々の健康の向上を図ります。

[重点戦略アクションプラン着手事業]

- ◆ 戦略的情報発信の推進事業
- ◆ 全学海外拠点 [グローバル人材育成: ジョン万プログラム(職員)] 展開事業
- ◆ 国際学術ネットワーク強化推進事業 ◆ 国際化業務推進強化事業
- ◆ 戦略的広報を通じた国際競争力強化事業 ◆ 国際性豊かな環境整備事業
- ◆ オープンアクセス推進事業 ◆ 研究支援体制高度化事業 ◆ 研究活動推進事業
- ◆ 次世代研究者育成支援事業 ◆ 先導的研究拠点形成事業 ◆ 臨床研究拠点における支援体制の強化

ORIGINAL AND OPTIMISTIC

失敗や批判を恐れず、それを糧にして異なる考えを取り入れて目標達成に導くような能力を涵養します。

▶ 重点戦略5-1

総合研究大学としてのポテンシャルを質の高い教育に反映させ、あらゆる学生や教員が安心して学習や教育研究に専念できる環境を作ります。

▶ 重点戦略5-2

総合大学に相応しいアドミッションのあり方を再考し、高校生の主体的な進路選択の支援および高校教育から大学教育へのスムーズな接続を図るため、高大接続および連携に関する事業を推進します。

▶ 重点戦略5-3

京都大学を特徴づける創造的学術領域における研究を推進します。

▶ 重点戦略5-4

外的な制約にとらわれない自由な発想を担保するために「基金戦略」を推進し、社会や大学支援者と大学とのつながりを強化します。

[重点戦略アクションプラン着手事業]

- ◆ 経済的学生の支援強化事業 ◆ 博士後期課程学生 特定研究学生制度(仮称)の創設
- ◆ 「高大接続改革実行プラン」を視野に入れた、高大接続事業及び入学選抜方法の検討を行う「高大接続・入試センター」の設立並びに強化
- ◆ 京都大学基金寄付募集活動推進事業 ◆ 全学同窓会支援・卒業生連携強化のための推進事業

NATURAL AND NOBLE

自然に親しみ、学び、高い品格と高潔な態度を身に付けられる、学びの場を作ります。

▶ 重点戦略3-1

教育研究環境の整備・充実を図ります。

▶ 重点戦略3-2

自然に学び、異文化と交流できる機会を増やします。

▶ 重点戦略3-3

コンプライアンスの強化を図ります。

[重点戦略アクションプラン着手事業]

- ◆ 利益相反マネジメント推進事業
- ◆ KUINSネットワークの館内・末端SWの更新事業
- ◆ 施設・環境マネジメント推進事業
- ◆ 桂キャンパス整備事業

WOMEN AND WISH

男女共同参画推進アクション・プランに基づき明るい希望をもてる環境を整備します。

▶ 重点戦略6-1

女性リーダー育成および家庭生活との両立支援を推進します。

▶ 重点戦略6-2

男女がともに高い希望をもちうる環境づくりを推進します。

[重点戦略アクションプラン着手事業]

- ◆ 男女共同参画推進事業